

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	雑報
Author(s)	
Citation	龍南會雜誌, 160: 143-144
Issue date	1916-03-28
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/6605
Right	

長谷川教授二十年

勤續祝賀式

淡々たる高潔な人格と遅いやうで速くても筆記のしよい教授振りどに我々が悦居る長谷川先生の勤續二十年を祝賀すべく、元節の前日二月十日午後三時をトして瑞邦館裡けられた。

杉山先生の開會の辭に始まり、小松の事務報告次いで記念品贈呈があり、職員總代(吉岡校長)友人總代祝辭(三角醫學士)同郷人總辭(石田文學士)門下生總代祝辭(井島辯護士)生總代祝辭(一三、丙松崎陽一君)祝電披露、順を以讀まれ或は演べられ、終りに長谷川教授の既往二年間に於ける世界の大進歩から我身の小に説き及ばされた謙遜的答辭があつて同五時閉會を告げた。茲には校長の祝辭をのみ掲ぐる。

抑々教育は社會永遠の内的勢力を養成するものにして直に其の效果を實現するものに非ず隨つて之に従事する者は政治軍事又は外

交等に從事する者の如く赫灼たる名譽を以て報いらるること難く、農業商業又は工業等に從事する者の如く豊盛なる利得を以て酬らるること難し徒に名聞利達に憧憬する者の如きは到底教育者たるの責に非るなり。然るに長谷川教授は明治二十八年八月本校講師の職に就きてより茲に二十年餘講學研鑽愈ることなく誨導誘導に至らざることなし是を以て教授が懇篤なる薰陶を受けて其の器材を成就し社會樞要の地位を占めたる者甚だ多し其の功績亦大なるかな而して教授の報いられたる所のものは其の功績に比して頗る薄きを覺ゆと雖も教授は其の奮子弟が實社會に活動せるの狀を相ふ毎に衷心愉悅に堪へざるものあらむ實に教育者の受くる所のものは一時の名利に非ずして永久の勢力なり身体上の安逸に非ずして精神上の愉悅なり教授は既に之を併せ得たりと謂ふべし。長谷川教授が生徒教養の爲に盡瘁せるや寔に此の如し而も教授は多年圖書監理として圖書課の事務を執掌し評議員として重要事項の諮詢に參與し勤勞甚だ勤からず曷くは攝養加饗一層本校の爲に戮力するところあらんことを。本日教授の知友同僚及び門弟相謀つて二十年勤續祝賀式を擧ぐるに當り聊か無辭を慮べて祝辭に代ふ

大正五年二月十日

第五高等學校職員總代 吉岡 郷甫

湯本五郎を弔ふ

一夜、寒梅霜に惱んで香苑空しく地に委する時、一片の悲報は忽焉として吾等交友の耳朵を打ちぬ。